



Die Eiche

Die Eiche ティ・アイヘ

Japanisch-Deutsche Gesellschaft der Präfektur Chiba

事務局 〒274-0822 船橋市飯山満町 2-518-1 清和会第2ワールドナースィングホーム

Tel 047-461-9111 Fax 047-461-7010

『日独交流 150 周年』 記念講演会開催

清野理事
右から宗宮会長、ナンディ副社長、



写真展示場



既報の千葉大学言語教育センターと共催の「日独交流 150 周年」記念講演会は、予定通り 6 月 20 日(月)に千葉大学西千葉キャンパス「けやき会館」で開催、無事成功裡に終了した。

当日はまずまずの天候で、14 時 30 分の開会に向けて、朝 9 時に 20 名の役員が会場に集合、ステージの音響・映像装置の調整、ロビーでは写真展示のパネルの組立て、写真の張り付け、受付の配置等の準備に取り掛かり、昼過ぎには準備完了。14 時 30 分、西坂智晃当会会員の司会でプログラムがスタート、先ず宗宮会長の開会挨拶と「日独修好 150 周年によせて」と題し、ドイツ(当時プロシヤ)代表オイレンブルグ伯の日本遠征記を紹介、続いて 15 時より清野智昭千葉大学言語教育センター准教授・当会理事が「外国語の効率の良い勉強法-特にドイツ語を例として」について講演された。16 時 10 分から野村芳正千葉大学言語教育センター長・千葉大学法経学部教授が歓迎挨拶として国際交流の重要性について話され、その後 17 時 50 分までメルセデス・ベンツ日本(株)代表取締役副社長ナンディ氏が「ドイツ人気質(かたぎ)と技術革新-メルセデス・ベンツの 125 年」のタイトルで話された。今回の記念講演会は千葉大学言語教育センターの午後の講座の時間帯を利用する形で組まれた。従って全学部からのドイツ語受講生を中心に市内の中学・高校生約 30 名と若い層が参加し、来賓、当会会員、一般市民、メルセデス・ベンツ・ジャパン関係者等で大盛況であった。

清野氏の講演はドイツ語教育の第一線を担ってドイツ語普及にご苦労されている経験に裏打ちされたもので、揶揄とユーモアを交え上記幅広い年齢層を充分納得させるものであった。講演内容についてすべてを記載することは紙面の制限からできないが、大変貴重な内容で、清野先生は「まとめ」として学習法に「魔法」は無いが「王道」はあるといわれている。王道の第一は「毎日こつこつ、時に集中」、「日本人が外国語をマスターする為には 2500 時間余の勉強が必要で、特に最初の 1,000 時間が決め手である」と説かれている。この講演資料を座右に置きたいと思われる方はご一報頂きたい。清野氏の御好意で講演資料を提供します。

ナンディ氏の講演は世界の乗用車、トラック、商用車の歴史を通して先導的役割を果たしてきたメルセデス・ベンツの技術革新の軌跡を辿る内容であったが、戦後発展を遂げた日本自動車産業の前史を知ると言うべき意味合いもあり、また安全、省エネ、環境という自動車産業全体の方向を明示するものであった。さらに、昨年千葉県に拠点进行を設け市民権を持った企業を知ると言う意義もあったと思う。清野氏には質疑を含め 90 分に亘る難しい講演の通訳を引き受けて頂いた。

そもそも、昨年春当会に 150 周年行事を何かやるべしという機運が強くなってきた時、当会の「身の丈に合った」行事は講演会ではないかというのが自然のコンセンサスであった。さて講演者をどうするかと

訃報

当会の鈴木淑弘理事には、6月30日(木)に千葉市内にて講演中に倒れられ、逝去されました。享年71歳。同氏は、当会発足の1996年以来の理事として、当会の発展に寄与されて来た他、各種団体に所属し、特に「全国第九を歌う会」の副会長としても活躍され、更に晩年は恩寵園の園長として、孤児の育英に努められました。謹んでご冥福をお祈り致します。

—今後の主な催し物案内—

1. ドイツ語勉強会

- ・日時： 10月13日、20日、27日、11月10日、17日 各木曜日 全5回
午後4時00分～5時30分
- ・場所： 船橋市中央公民館
- ・講師： 平尾浩三先生 (当会 名誉会長)
- ・協力： 大河内ロスウイータ氏(当会会員)
- ・内容： Luise Rinder : Gibt es Gott? (「神は本当にいるのか」) の購読を柱として、多様な角度からドイツ語に親しみ色々と話し合ひましょう
- ・参加費：会員 3,500円、非会員 4,000円
(共に教材費含む)
- ・申込方法：e-mail: sakmtmk@seaple.ne.jp
tel : 090-7823-6842 坂本宗秋
- ・非会員の方の参加も歓迎致します。

2. ボトルシップ研究会

- ・日時：8月20日(土) 15:30～17:30
- ・場所：中央公民館第2集会室(4階)
(JR/京成船橋駅より徒歩8分)
- ・テキスト：「ドイツ兵士の見たニッポン」
第4章4. 文化～9. スペイン風邪の流行
(58～96頁)

3. ドイツ軍人慰霊祭

当協会恒例のドイツ軍人慰霊祭は下記により開催致します。

日時：11月13日(日) 11:00～12:00
場所：船橋市営習志野霊園
次号で詳細をお知らせ致します。

お知らせ:年会費納入のお願い

7月末日現在で会費未納の皆さまに郵便振替票を同封しますので、早目にお振込の程、宜しくお願ひ申し上げます。

(前頁より)いう段になって、昨年12月メルセデス・ベンツ・ジャパンが習志野市茜浜にサービス拠点を開設するということを知り、また習志野市からこの事業所所長で代表取締役副社長のナンディ氏の紹介を得て、1月に講演のお願いする事となった。講演のテーマについては、何においても弛み気味な日本人に喝が入るような話をという事で「ドイツ人気質(かたぎ)」という演題をお願いした。同氏は東大大学院で機械工学を研究された経歴をもたれ直ぐ承知されたが、自分は会社の代表であるので少しは会社の宣伝をさせて貰いたいたいという要望を出され、今回の演題が決められた。

1月21日、千葉大学言語教育センター(清野、田中両准教授)との打合せで講演会共催を含め行事の大綱が決定、会場は「けやき会館」という前提で、日時は6月20日(月)となった。月曜日が幸いし上記のような講座時間の利用が可能となった。その後、3月11日の東北巨大地震・巨大津波と原発事故により本講演会の延期・中止も検討されたが、予定通り実施が決まり、ポスター・チラシの手配、千葉県、ちば国際コンベンションビューロー、公益財団法人日独協会、ドイツ大使館に後援申請、ドイツ大使館には日独交流150周年記念ロゴの使用申請と費用助成の確認を行った。6月初めにかけて県と千葉市を始めとする6市及び、千葉大、麗澤大、神田外語大、それに市内の中学、高校等にポスター・チラシを配布、同時に当会会員にはDie Eicheとチラシでご案内した。広報では千葉大生を初め各方面からの参加者を計算すると満席も・・との予想から、メディア等への案内を控えた。千葉市、習志野市両国際交流協会等にはホームページや紙媒体の広報をお願いし、結果的には延べ300名弱の入りであった。会館ロビーでの写真展示では、当会の「活動紹介」と「ドイツと千葉県150年」というタイトルでこれまでに使用した写真・資料を150年の時系列で展示した。修好条約締結から10年後には順天堂の佐藤進がベルリン大学に留学、同大学の医学博士号を取得、また今回は千葉大学医学部の淵源が明治の初期のドイツ医学にあるという史実を展示に加えた。第一次世界大戦時の習志野俘虜収容所とドイツ将兵の慰霊碑、第二次世界大戦の戦前戦後に亘る御宿伊藤庸二と伊藤家のドイツとの係り、2000年以降の市川市/ローゼンハイム市の姉妹交流、千葉県とデュッセルドルフ市の交流、そしてメルセデス・ベンツ・ジャパンの習志野市進出にいたる歴史で認識を新たにしたい参加者が多かった。講演会終了後、けやき会館内のレストラン「コルザ」で講演者の慰労と会員40名との懇親の会が開かれた。ナンディ氏は素晴らしい経験であったことなど立派な日本語で挨拶、また清野氏は懇親の中で氏自身の講演に続く90分の通訳は厳しい経験であったとの意をもらされた。同氏には今回の行事のあらゆる面で積極的なご協力をいただき本行事の大成功を可能にして頂いた。懇親会は19時30分終了。

(副会長 橋口昭八)